

---

# 社会福祉法人リデルライトホーム

## 2025年度 事業計画

---

### I. 法人基本方針

社会福祉法人リデルライトホームは、令和3年4月に養護老人ホームに加え特別養護老人ホーム及びデイサービスセンターを開設し、施設の多様化と在宅系の拡大を行いました。平成17年7月から地域密着及びケアの個別化としてグループホーム及び小規模多機能型居宅介護事業所をつくり、平成24年頃より地域共生社会の具体化として、3校区の居宅や訪問看護も開設しました。これらの活動により、令和7年度には34年を迎えることとなります。昨今の物価高騰やエネルギー価格の高騰を受け、令和7年度は大変厳しい年になると考えています。人口構造の変化と介護サービスの多様化に対応するため、組織の柔軟性と適応力の強化、人材育成とテクノロジーの活用、地域との連携を更に深め、持続可能な事業運営を目指して新たな取り組みを行ってまいります。

### II. 重点項目

#### 1. 人材の獲得、人材育成と福利厚生面の向上による職員の定着

高齢者施設が増えてきたことによる介護スタッフの需要が増加したこと、また、生産年齢人口の減少、そして、半導体関連企業が熊本に進出してきたことによる働く人員の減少と賃金の上昇により人材の獲得は今後も更に厳しくなると考えられます。新卒・中途採用の求人内容・方法を見直し、新たな職員の獲得へとつなげていきます。また、専門的な知識とスキルを持ったスタッフを効率的に配置し、周辺業務を細分化し短時間職員への業務移行、他事業者へ業務を委託することで、質を落とすことなく職員の効率的な配置を行い、現職員への負担軽減へとつなげます。また、今働いている職員が笑顔で継続的に働いてくれる環境をつくる為に、職員の得意なことを活かし、ワークライフバランスがとれた働きやすい職場環境をつくります。

- ① ハローワークの求人広告の見直し改善
- ② ホームページやSNS、パンフレット内容の見直し改善、法人の魅力発信
- ③ 高校・大学・専門学校への求人活動方法の見直し改善
- ④ 求職者見学会の開催
- ⑤ 外国人労働者の指導体制の構築
- ⑥ スポット労働力の活用
- ⑦ 次世代の福祉職員育成の為に介護の魅力発信事業の開催
- ⑧ イベント開催時のボランティアの活用
- ⑨ 周辺業務のB型事業委託化
- ⑩ 高校、専門学校、大学との共同イベント企画の開催
- ⑪ 置き社食の設置
- ⑫ 先進的取り組み施設、地域の視察

## 2. 持続可能な経営基盤の確立

経営状態を維持・改善していくためにも入所者、利用者数の維持は非常に重要な課題です。熊本市内においても有料老人ホームの建設が増え、熊本市内の特養においても空床が目立ってきています。当法人におきましても、特別養護老人ホームの申し込みはここ数年減少、デイサービスやショートステイの利用者も減少傾向にあります。今後、入所者、利用者を維持していくためにも、法人の付加価値を創出し、魅力ある入所・利用生活を発信することで、利用につなげていく必要があります。

- ① 横出しサービス（マッサージ、思い出写真、出張シェフ.etc）による付加価値の追加
- ② プラリハの拡充・広報による地域利用者の増員
- ③ 地域における介護相談窓口の設置及び、地域活動への参加

## 3. スマートケアプラットフォームの構築

今後、人材の確保が難しくなっていく中において、業務を ICT 化させ、業務負担を軽減していく必要があります。また、身体的に負担のかからないノーリフティングをより積極的に取り入れていくことで、人材の維持を図ります。

- ① 見守りカメラの導入による夜勤者の業務負担軽減
- ② ファイルサーバーのクラウド移行に伴う業務場所にとらわれない働き方
- ③ インカム拡充、自動音声入力、RPA.etc を利用した業務負担の軽減
- ④ 福祉情報工学等との産学連携の第一歩
- ⑤ ノーリフティングの研究と拡充
- ⑥ 法定研修の動画化
- ⑦ 勤怠管理の ICT 化

## 4. 法人間連携による種別を超えた持続的な成長と安定的な経営基盤の拡充

連携推進法人ジョイント&リップルは、令和5年3月に設立され、3年目を迎える令和7年度を迎えます。これまで、合同研修会やオンライン研修の共有、災害対策の実施、イベント開催など、様々な面で連携を強化してまいりました。令和7年度は、これまで培ってきた経験をもとに、さらなる発展を目指し、人材確保と利用者確保の両面で効果を検証し、新たな利用者層を開拓するためのマーケティング活動等、実効性を高めることに注力します。